

池田温泉の「狭さ」を 解消するには

本館・新館と2つある今の形もいい



窪田弘子 議員

県下屈指の池田温泉の84%は町外のお客様。一番多いご意見は「狭い」事。ゆったり広くするには南の駐車場に将来建て替える以外ない。今は何も建てず、安全で環境に配慮した新温泉を作る夢を町民と共有したらどうか。宿泊客には「ふくしの湯」で朝風呂を提供されたい。お客様が何を望んでみえるか、「道の駅」が上位にくるとは思えない。

「池田町は道の駅どころじゃないだろう」という多くの民意を私は代弁したい。

町長

温泉は池田町のオンリーワン。本館新館とあるのはいいし、朝風呂も考慮中。新築には10億円余かかる。農産物販売は運営次第でうまくいく。

道の駅の財源は

町長

温泉駐車場も含め約5.5億円（土地1.5億、造成2億、建物1.5億、他0.5億）県からの補助金は40%位。町負担は3.5億円位。経営は管理組合を作ってやってもらう。

学校等にシンボルとなる高木を、 そしてもつと木陰を 順次植えていく

町内の公共施設は緑が少ない。葉っぱが落ちると文句が出がちだが、葉っぱがCO₂を吸って酸素を出してくれるから私達は生きられる。人の集まる学校・保育園・公民館に高木のシンボルツリーを植えられる。大木は子供達に命の尊さを感じさせる。何より涼しい風の流れる木陰の価値は計り知れない。



温知保育園の園庭
植樹後4年、こんなに木も成長した。



八幡保育園
園庭の大木の下で元気に遊ぶ園児

町長

温知・宮地保育園で取り組んでいる。植樹帯は防災機能もある。花粉症も考えて進める。